

# ネット世代の親子への注意喚起に関する研究

-Attention to parents and children of the Internet generation-

宮崎 元太

指導教員 西野隆司

サレジオ高専 デザイン学科 価値創造研究室

キーワード：社会問題,インターネット,依存症

## 1. 研究背景

私たちが普段利用するネットはとても便利な反面危険性も持っている。その二面性について学ぶ前にネットを利用する習慣があると、気付かぬうちに危険な使い方をする可能性がある。しかし、多くの家庭でスマホやゲーム機など様々なネット接続手段があるにも関わらず、小学生以下などの低年齢層でネットリテラシーについて学ぶ機会は少ない。

## 2. 研究目的

判断力の低い子供に向けて、未然に依存症、sns上のトラブルなどを防ぐ。また、その親もデジタルデバイスの二面性について理解度を向上させる。

## 3. 研究意義

近年の6歳の子供の7割近くはインターネットの危険性について学習経験がないとされる。物心がつき始め、ゲーム機や親のスマートフォンなどでインターネットに触れ始める時に知識がないということは、これからさらにネットが身近になっていくであろう未来において、重大な被害をもたらす危険性がある。お酒やタバコと違い年齢制限は曖昧で、子供の判断で様々な事ができるインターネットは、その構造について親子が理解する必要があると考える。既にネット依存症は社会問題となっており、スマホを持ち始める中高生の内、国内で100万人がネット依存症に陥っているとされる。スマホはマルチタスク状態をデフォルトとして、現実世界への集中力を低下させる。スマホを利用することが当たり前の社会で、このような事実はあまり認知されていない。共働きなどで忙しい家庭が子供のゲームやyoutubeの利用を加速させ、デジタルデバイスの過剰利用がデフォルトになったことで現実世界に適応できない

「適応障害」「発達障害」を発生させるなど、不適切な利用方法は子供の発育を阻害させる可能性を持っていると言える。これらの問題に対し注意喚起を行うことで、これから世代のデジタルデバイスへの常識を変え諸問題を防止する働きを期待する。

## 4. 調査内容

令和1年に実施された「令和元年度 青少年のインターネット利用環境実態調査」[1]によると、3歳の子供の89.5%、6歳の子供の68.5%はインターネットの学習経験がないとされる。デジタルデバイスが子供の脳に与える影響については不明な点が多いが、平成5年から25年にかけて日本の発達障害の子供が6倍以上に急増している[2]ことを見ると、新しい生活様式の何らかが子供に影響を与えていた可能性が高い。2018年の厚生労働省の統計によると中高生の内93万人がネット依存性である。書籍[3]によると、現在確認されている問題は、個人情報の流出、ネット依存、誹謗中傷などが挙げられている。

## 5. 研究方法

子供がデジタルデバイスに触れる前に親子で二面性を学ぶことができる手段を模索。

- ①オンスクリーンではない
  - ②読み聞かせることでコミュニケーションを取れる
  - ③親子で理解を深めることができる
  - ④子供が飽きにくい
- 以上の要素を軸に考えた結果、絵本を用いた解決方法を考えた。アプリケーションも考えたが、デジタルデバイスを利用しての解決は、今回の問題を解決できないと判断した。

## 6. 研究アプローチ

「親子で学べる絵本」ということで、文字情報だけでなく、グラフィックなどを用いて子供にも伝わりやすく、印象に残りやすい構成にする。読み聞かせ部分だけだと親の理解が補い足りないと考え、後半部分には簡潔に「なぜ危険なのか」の解説を加える。

## 7. 今後の展開

絵本の作成を進め、問題点の修正、グラフィックの改善を行う。紙製で、絵本部分30ページ、解説部分15ページほどを予定しており、展開に応じて追記などを行う予定。試作のアンケートなどを行い、完成へと進める。

## 8. 参考文献

[1]内閣府政策統括官(共生社会政策担当)令和元年度「青少年のインターネット利用環境実態調査報告書 第二節 家庭のルールやインターネットの危険性に関する学習状況,第2章 青少年の保護者調査の結果,第3章 低年齢層の子供の保護者調査の結果,第2節 インターネットに関する子供・保護者の認識」令和二年4月

[2]文部科学省平成25年度「通級による指導実施状況調査」平成25年5月1日

[3]関和之『学校では教えてくれない大切なこと⑫ネットのルール』旺文社,2016年  
44p,102p,112p,120p,